

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 3 No 8

25号

平成7年 8月 1日

ステロイドホルモンについて

院長

今回は、ステロイドホルモンについてお話ししてみたいと思います。ステロイドホルモンという言葉が聞かれています。一度くらいは、耳にしたことがあると思います。

この言葉が、よく聞かれるようになったのは、アトピー性皮膚炎の治療に関してです。そこから誤解が生じたようで、どうもステロイドホルモンは悪役になっているようです。

ではステロイドホルモンとはどんなものなのでしょう。元々ホルモンですから、ひとがからだの中で作り出しているもので、みんなの血液の中を流れています。ステロイドホルモンがなければ、体内のいろいろな調節が不可能になり、生命を保つこともできません。つまりひとが生きていくうえには、無くてはならないものなのです。

アトピー性皮膚炎や湿疹の治療に使われていますが、他にも様々な病気に使われている薬です。軟膏だけでなく内服薬、注射液など製剤としてもいろいろあるのです。もちろん安易に用いる薬ではありませんが、重症な場合や免疫などが関係する病気で使われることがあります。小児科関係では、重症の喘息、蕁麻疹、ネフローゼ症候群、白血病で使用されます。目的としては、苦痛を改善することや生命を守ることです。いろいろなことが原因で起こるショックは、放って置けば命にかかわる状態です。こんな場合もステロイドホルモンによって、治療され最悪の事態を免れるひとが大勢います。

湿疹やアトピー性皮膚炎のおかあさんに、“ステロイドホルモンは使いたくありません”とか“軟膏にはステロイドホルモンは入っていますか”と聞かれることがあります。耳学問の知識でしょうか、ステロイドホルモンはすっかり悪役となっているようです。お母さん達が、しっかり

した知識や理解の上で言うのであれば、小生は口をはさみませんし、湿疹やアトピー性皮膚炎が軽くて本人の苦痛がなければ、何も言いません。しかし皮膚が掻き傷だらけで血がにじんでいる子を前にして、そう言うお母さん達がい



ます。蚊に刺されて痒くて眠れないのに、そんな子はどんな思いをしているのでしょうか。お母さんだったら我慢できますか。きっと我慢できないはず。飲み薬のかゆみ止めはあまり効果がなく、やはりその症状を軽くするためには、ステロイドホルモンが必要なこともあるのです。

ステロイドホルモンをどんどん使いなさいと言っているわけではありません。国立小児病院の皮膚科の部長の山本先生（テレビでも活躍中の小児の皮膚科の第一人者です）が仙台の講演会の時に、“お醤油をたくさん飲むと死んでしまいます。だからと言ってお料理にお醤油を使わないとはいけません。まして上手に使えば料理の味も引き立ちます。ステロイドホルモンも同じです”と話されていました。やはり必要に応じて、上手に使うことが大切です。

もう少し激しい表現を試みましょう。使うか使わないかは、お母さんの判断で結構です。喘息で息が止りそう、苦しい時、蕁麻疹がひどく一睡もできない時、ショックで今にも死にそうな時に、自分自身にステロイドホルモンを使わない自信がある人は、この薬を否定しても結構です。

用は使い方です。もちろん副作用もあります。強い薬を長期に広い範囲に使用することは避けなければなりません。そのこともしっかり考えるのが、小児科医の仕事です。使う場合には、よく指示を守るようにしましょう。

お願い 最近投書や投稿が少なくなってきました。よろしくお願ひ致します。

読者の広場

今月は、投書その他あまり多くありませんでした。



暑中お見舞いと絵を頂いたので、載せることにしました。有難うございました。お母さん達の中でイラストその他得意の方大歓迎です。できれば、折り目が見つからないようにお願い致します。投書その他まだまだ足りませんお待ちしています。お子さんの作品もどうぞ、お礼にカラーの新聞を差し上げます。新聞は、コミュニケーションのひとつですが、他の方法のひとつとして、電脳掲示板を計画しています。これは、待合室に置いておき、情報を患者さん達に伝えるための方法です。どんな具合になるか期待してください。



太白区 三浦和音ちゃん（4歳）

病気ひとくち知識

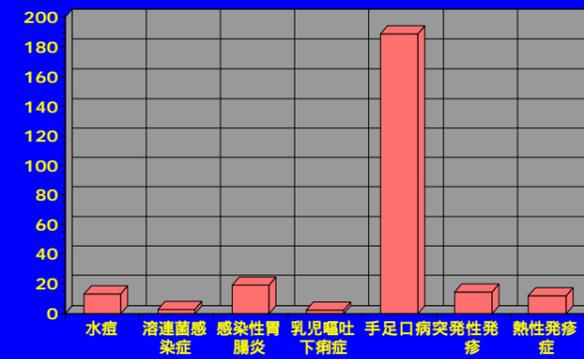
風疹

原因は、風疹ウイルスで潜伏期は2～3週間とされる。飛沫感染で流行するが、麻疹や水痘より感染力は弱い。不規則な間隔で局地的に流行しやすく春から夏の初めに多く見られる。赤い発疹、リンパ節腫脹、発熱が特徴で、発疹はバラ紅色で小さく孤立上で、一見きれいでかゆみがあることが多い。顔面から始まり体、四肢へ広がり3日で消失する（三日はしかと呼ばれる理由）。リンパ腺腫脹は、耳介後部、後頭部などに見られ、圧痛（押すと痛む）があることが多い。発熱は、約半数に見られるが2～3日で解熱する。その他の症状としては、結膜充血、咽頭痛、咳嗽、頭痛なども見られることがある。合併症としては、脳炎、髄膜炎、紫斑病があり、近年増加している。最も重要なのは先天性風疹症候群で、妊娠早期にかかると、様々な奇形のこどもが生まれる可能性が高い。治療は、対症療法で、予防接種が定期化されている。合併症や、先天風疹症候群のことを考えると予防接種の必要な病気である。20～50%が不顕性感染といわれ、軽い場合は診断が困難なことがある。

予防接種料金改訂のお知らせ

4月から市の委託による接種料金が変わり、7月からワクチンの値上げにより値上げ予定です。状況がわかり次第接種料金の改訂をします。ご了承ください。

7月の感染症の集計



東北放送のラジオ出演で話していたように、手足口病が大流行でした。最近が目立って少なくなっています。手足口病に似たような発疹症が見られ、その中に溶連菌感染症の子が3人いました。水痘はまだ見られています。手足口病の流行のおかげで大混雑の一月でした。その他ウイルスは不明ですが1ヶ月前後の子の発熱と肝機能障害で2人入院となりました。

編集後記

うつつしい梅雨が明け、た途端、炎熱地獄です。先月も、混雑でご迷惑をかけています。お喋り好きの先生と笑ってお許しください。もっとも、がんばるしかないようです。



夏期休暇のお知らせ

8月13日(日)

～17日(木)までとなります。

ご迷惑をおかけしますが、ご協力お願いいたします。

今月の栄養指導

8月2日、23日(水)

13:30～ 参加無料



目次に戻る

前の号

次の号